

立川第六中学校区

第八小  ・ 第十小  ・ 立川第六中 

<小中連携のテーマ>

九年間で育てよう ～具体的な取組を通して～

<ねらい>

- 挨拶をはじめとして、学校生活において小中学校で一貫した指導を行い、規範意識をもって笑顔あふれる校区を目指す。
- 立川六中校区内での指導を共有できるように情報交換をし、学習の基礎的・基本的な内容の定着を図り、学習面において具体的な取組を実践していく。

<今年度の活動>

小中連携推進会議・引き継ぎ	4月（顔合わせ） 9月 立川市民科の教科化に向けた意見交換会 11月（幼保小中話し合い）、 2月（今年度振り返り、次年度予定確認）
立川市民科取組の情報交換	9月、11月、2月
六中英語教員の小学校外国語科授業参加	2～3学期 八小と十小に各校10回ずつ 事前に打ち合わせをし、児童が中学校英語授業への見通しがもてるように計画、実践した。
人権標語の作成	12月 人権週間（12月4日～10日）に合わせて人権標語を作成し、各校の代表作品をポスターにして各校に掲示した。
小学生の中学校体験授業・部活動体験	2月 小学生の中学校体験授業・部活動体験を実施予定
小中担任による引き継ぎ	3月 6学年担任と中学校教員とで児童について共通理解し、引き継ぎを行う。

<目指す児童・生徒像①> ～自分の力を伸ばすために意欲的に学び続ける。～

○授業参観 今年度会場校 4月：第六中学校 授業参観 小中教員顔合わせ 7月：第八小学校 授業参観 → 9月に実施	○分科会協議会（未実施） ①学力向上 ②生活指導 ③特別支援教育 ④外国語 ⑤校内研究 ⑥保健養護
→7月に予定していた授業参観と分科会協議会は実施できなかったが、9月に形式を変更して実施。市民科教科化に向けた八小関口校長先生による解説と小グループによる意見交換会を Google Meet により実施。例年は、児童・生徒の様子を通して、共通で行う取組の確認などを行っている。	
○学習規律の3校共通理解、取組 →「3つの心構え」の掲示・実践（①学習道具をしっかりと準備しよう！②授業と休み時間のけじめをつけよう！③よい姿勢で集中して話を聞こう！）	
○基礎学力の定着に向けて →学習方法や基礎学力定着のための指導法、家庭学習の方法や実態について情報交換して役立てている。	

< 目指す児童・生徒像②③ > ~自分を大切にするとともに他の人との関わりを大切に作る。

よく考え、正しい判断で行動できる。～

○「あいさつ運動」の取組

→例年では、地域の方や青少年育成地区委員会、PTAの方とも協力しながら、3校共通して代表委員会や生徒会であいさつ運動を行っているところであるが、今年度については、各校の実態に応じて進めている。場に応じたあいさつができることや進んでコミュニケーションを図ろうとする力の育成が目標である。

○「よい言葉づかい」の取組

→3校共に、丁寧な言葉づかい、場に応じた言葉づかい、相手に応じた言葉づかいができるように指導している。また、相手を傷つける言葉づかいや乱暴な言葉づかいをしないように指導するとともに、教師の言葉づかいにも注意し、言葉への意識を高めている。

○中学校英語科教員と小学校担任のチームティーチングによる

「外国語科授業」

→小学校中学年から学習している外国語授業ではあるが、小学校外国語科から中学校英語科への流れについて不安を感じている児童は多い。その不安を少しでも払拭できるよう、中学校英語科教員と小学校担任が連携して、「楽しく学べ、中学校への見通しがもてる英語の授業」を目指している。



中学校体験授業の様子

○小学校6年生「中学校体験授業」

→小学校6年生は、中学校進学を控えて様々な不安を抱えることがある。その中の1つとして、小学校の学級担任制から中学校の教科担任制への変化についての不安があると考えられる。実際に中学校へ出向いて授業を体験することで、授業の流れや場の雰囲気について知り、安心することができる。進学に向けて見通しと希望のもてる取組としたい。



部活動体験の様子
(令和元年度もの)

○中学校生徒会による「中学校説明会」

→教師主導の取組ばかりでなく、生徒会による学校説明会を開催している。小学生が中学生の先輩から話を聞くことで、中学校への具体的なイメージをもつことができる。説明する生徒会のメンバーは、小学生の気持ちに寄り添いながら話を進めるので説得力がある。中1ギャップに軽減に有効な取組と考えている。昨年度より映像による説明を実施している。

< 目指す児童・生徒像④ > ~地域を愛し、地域に深くかかわり貢献できる。～

○市民科「私たちのまち 立川」の学習

→小学校2校で「自分のまちに、自分は何ができるか」というテーマに取り組んでいる。

○小学校「将来について知る・考える」 中学校「職場体験」

→キャリア教育の一環として、自分の将来について考えるとともに、社会には様々な職業があり、多くの人々に支えられて生きていることを学ぶ学習である。

< 取組の成果と課題 >

○成果・・・コロナ禍の中、予定されていた小中連携の計画を全ては実施できなかったものの、担当者で詳細を確認しながら、できる範囲での連携を実施することができた。

○課題・・・既存の取り組みが定着しているが、コロナの影響や児童・生徒の状況に合わせて見直しや新たな取組を模索するとともに、市民科の教科化についても連携を深め、より充実した取組が実施できるように担当者を中心に連絡を密にとっていきたい。また、不登校の減少に向けても連携して取り組む必要がある。

